

**CASBEE-建築(新築)2016年版**  
 (仮称)村本建設研究所・研修センター施設

■使用評価マニュアル: CASBEE-建築(新築)2016年版  
 ■評価ソフト: CASBEE-BD\_NC\_2016(v4.01)

スコアシート 実施設計段階

配慮項目	環境配慮設計の概要記入欄	評価点		重み係数		全体
		評価点	重み係数	評価点	重み係数	
<b>Q 建築物の環境品質</b>						<b>3.6</b>
<b>Q1 室内環境</b>			<b>0.40</b>			<b>3.5</b>
<b>1 音環境</b>		3.1	0.15	3.1	1.00	3.1
1.1 室内騒音レベル		3.0	0.41	3.0	0.50	
1.2 遮音		3.0	0.41	3.2	0.50	
1 開口部遮音性能		3.0	0.65	3.0	0.30	
2 界壁遮音性能		3.0	0.35	3.0	0.30	
3 界床遮音性能(軽量衝撃源)				3.0	0.20	
4 界床遮音性能(重量衝撃源)	スラブ厚150mm、スラブ面積12㎡以下			4.0	0.20	
1.3 吸音	床:カーペット、天井:岩棉吸音板	4.0	0.17		-	
<b>2 温熱環境</b>		2.9	0.35	3.3	1.00	2.9
2.1 室温制御		2.8	0.50	3.7	0.50	
1 室温		2.0	0.41	3.0	0.63	
2 外皮性能	高断熱化、底の設置	4.0	0.27	5.0	0.38	
3 ゾーン別制御性		3.0	0.33		-	
2.2 湿度制御		3.0	0.20	3.0	0.20	
2.3 空調方式		3.0	0.30	3.0	0.30	
<b>3 光・視環境</b>		3.7	0.25	3.1	1.00	3.7
3.1 昼光利用		3.0	0.30	3.4	0.30	
1 昼光率	昼光率 事務所部分=1.58%/宿泊部分=13.96%	3.0	0.60	5.0	0.50	
2 方位別開口				1.0	0.30	
3 昼光利用設備		3.0	0.40	3.0	0.20	
3.2 グレア対策		5.0	0.30	3.0	0.30	
1 昼光制御	自動制御ブラインドによりグレアを制御。	5.0	1.00	3.0	1.00	
3.3 照度	事務室は設計照度を500Lxに設定	4.0	0.15	3.0	0.15	
3.4 照明制御		3.0	0.25	3.0	0.25	
<b>4 空気環境</b>		4.3	0.25	4.5	1.00	4.3
4.1 発生源対策		5.0	0.51	5.0	0.63	
1 化学汚染物質	ほぼ全面的にF☆☆☆☆を採用	5.0	1.00	5.0	1.00	
4.2 換気		3.5	0.31	3.6	0.38	
1 換気量		3.0	0.35	3.0	0.33	
2 自然換気性能	自然換気有効開口面積率 事務所部分=1/14.1 宿泊部分=1/9.8	5.0	0.29	5.0	0.33	
3 取り入れ外気への配慮		3.0	0.35	3.0	0.33	
4.3 運用管理		4.0	0.17		-	
1 CO <sub>2</sub> の監視		3.0	0.50		-	
2 喫煙の制御	ビル全体を禁煙とする。	5.0	0.50		-	
<b>Q2 サステナビリティ</b>			<b>0.30</b>			<b>3.6</b>
<b>1 機能性</b>		4.0	0.40	3.2	1.00	3.9
1.1 機能性・使いやすさ		3.5	0.40	3.0	0.60	
1 広さ・収納性	1階事務室 執務人数6名	5.0	0.29		-	
2 高度情報通信設備対応		3.0	0.29	3.0	1.00	
3 バリアフリー計画		3.0	0.42		-	
1.2 心理性・快適性		4.7	0.30	3.5	0.40	
1 広さ感・景観	1階事務室の天井高 2.7m	4.0	0.29	4.0	0.50	
2 リフレッシュスペース	食堂の面積 108.12㎡ + 西側受水槽前に身振機を設置	5.0	0.29		-	
3 内装計画	従業員の活力を生む『ウェルネス研修センター』をコンセプトに掲	5.0	0.42	3.0	0.50	
1.3 維持管理		4.0	0.30		-	
1 維持管理に配慮した設計	高耐久内装材(ビニルクロス、ビニルタイル、無機系塗床等)、高耐久	5.0	0.50		-	
2 維持管理用機能の確保		3.0	0.50		-	
<b>2 耐用性・信頼性</b>		3.5	0.30		-	3.5
2.1 耐震・免震・制震・制振		3.8	0.50		-	
1 耐震性(建物のこわれにくさ)	建築基準法に定められた25%増の耐震性を有する。	4.0	0.80		-	
2 免震・制震・制振性能		3.0	0.20		-	
2.2 部品・部材の耐用年数		3.2	0.30		-	
1 躯体材料の耐用年数		3.0	0.20		-	
2 外壁仕上げ材の補修必要間隔		3.0	0.20		-	
3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔	床(塩ビタイル)の耐用年数=20年	5.0	0.10		-	
4 空調換気ダクトの更新必要間隔		3.0	0.10		-	
5 空調・給排水配管の更新必要間隔		3.0	0.20		-	
6 主要設備機器の更新必要間隔		3.0	0.20		-	
2.4 信頼性		3.2	0.20		-	
1 空調・換気設備		3.0	0.20		-	
2 給排水・衛生設備	節水器具を設置。受水槽に水道の蛇口を設置。	4.0	0.20		-	
3 電気設備		3.0	0.20		-	
4 機械・配管支持方法		3.0	0.20		-	
5 通信・情報設備		3.0	0.20		-	

3	対応性・更新性		3.4	0.30	3.4	1.00	3.4
	3.1 空間のゆとり		4.6	0.26	3.8	0.50	
	1 階高のゆとり	階高=4.27m	5.0	0.60	5.0	0.60	
	2 空間の形状・自由さ	壁長さ比率 事務所部分=0.17 宿泊部分=0.61	4.0	0.40	2.0	0.40	
	3.2 荷重のゆとり		3.0	0.26	3.0	0.50	
	3.3 設備の更新性		3.0	0.48	-	-	
	1 空調配管の更新性		3.0	0.20	-	-	
	2 給排水管の更新性		3.0	0.20	-	-	
	3 電気配線の更新性		3.0	0.10	-	-	
	4 通信配線の更新性		3.0	0.10	-	-	
	5 設備機器の更新性		3.0	0.20	-	-	
	6 バックアップスペースの確保		3.0	0.20	-	-	
Q3 室外環境(敷地内)			3.0	0.30	-	-	3.7
1	生物環境の保全と創出		3.0	0.30	-	-	3.0
2	まちなみ・景観への配慮	京都府景観審議会関西文化芸術研究都市景観部会の意見を反映し	4.0	0.40	-	-	4.0
3	地域性・アメニティへの配慮		4.0	0.30	-	-	4.0
	3.1 地域性への配慮、快適性の向上	東面に車寄せの大庇を設置。2階のワイガヤホールは施設機能提供	4.0	0.50	-	-	
	3.2 敷地内温熱環境の向上	暑熱環境の緩和に寄与する対策面積率を48%確保	4.0	0.50	-	-	
<b>LR 建築物の環境負荷低減性</b>							<b>3.5</b>
LR1 建築エネルギー			3.0	0.40	-	-	3.5
1	建物外皮の熱負荷抑制	BPI=0.66	5.0	0.20	-	-	5.0
2	自然エネルギー利用	ハイサイドライト、手動開放窓の設置。	3.8	0.10	-	-	3.8
3	設備システムの高効率化	BEI=0.80	3.2	0.50	-	-	3.2
4	効率的運用		3.0	0.20	-	-	3.0
	集合住宅以外の評価		3.0	0.87	-	-	
	4.1 モニタリング		-	-	-	-	
	4.2 運用管理体制		3.0	1.00	-	-	
	集合住宅の評価		3.0	0.13	-	-	
	4.1 モニタリング		3.0	0.50	-	-	
	4.2 運用管理体制		3.0	0.50	-	-	
LR2 資源・エネルギー			3.0	0.30	-	-	3.6
1	水資源保護		3.4	0.20	-	-	3.4
	1.1 節水	脱音装置、節水型器具、	4.0	0.40	-	-	
	1.2 雨水利用・雑排水等の利用		3.0	0.60	-	-	
	1 雨水利用システム導入の有無		3.0	0.70	-	-	
	2 雑排水等利用システム導入の有無		3.0	0.30	-	-	
2	非再生性資源の使用量削減		3.6	0.60	-	-	3.6
	2.1 材料使用量の削減		3.0	0.10	-	-	
	2.2 既存建築躯体等の継続使用		3.0	0.20	-	-	
	2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用		3.0	0.20	-	-	
	2.4 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用	再生クラッシュラン、ビニル床タイル、ビニル床シート	4.0	0.20	-	-	
	2.5 持続可能な森林から産出された木材		3.0	0.10	-	-	
	2.6 部材の再利用可能性向上への取組み	フリーアクセスフロアの採用。	5.0	0.20	-	-	
3	汚染物質含有材料の使用回避		4.0	0.20	-	-	4.0
	3.1 有害物質を含まない材料の使用	ビニル床タイル接着剤	4.0	0.30	-	-	
	3.2 フロン・ハロンの回避		4.0	0.70	-	-	
	1 消火剤		-	-	-	-	
	2 発泡剤(断熱材等)	不燃吹付断熱材	5.0	0.50	-	-	
	3 冷媒		3.0	0.50	-	-	
LR3 敷地外環境			3.0	0.30	-	-	3.3
1	地球温暖化への配慮	LCCO2排出量86%	3.5	0.33	-	-	3.5
2	地域環境への配慮		3.5	0.33	-	-	3.5
	2.1 大気汚染防止		3.0	0.25	-	-	
	2.2 温熱環境悪化の改善	敷地境界からセットバックするとともに南側の卓越風を通す配置計	4.0	0.50	-	-	
	2.3 地域インフラへの負荷抑制		3.2	0.25	-	-	
	1 雨水排水負荷低減		3.0	0.25	-	-	
	2 汚水処理負荷抑制		3.0	0.25	-	-	
	3 交通負荷抑制	南北に車両出入口を設け一方通行の車両動線を確保	4.0	0.25	-	-	
	4 廃棄物処理負荷抑制		3.0	0.25	-	-	
3	周辺環境への配慮		3.0	0.33	-	-	3.0
	3.1 騒音・振動・悪臭の防止		3.0	0.40	-	-	
	1 騒音		3.0	0.33	-	-	
	2 振動		3.0	0.33	-	-	
	3 悪臭		3.0	0.33	-	-	
	3.2 風害、砂塵、日照障害の抑制		3.0	0.40	-	-	
	1 風害の抑制	自主的な対策を評価しない。	3.0	0.70	-	-	
	2 砂塵の抑制		-	-	-	-	
	3 日照障害の抑制		3.0	0.30	-	-	
	3.3 光害の抑制		3.0	0.20	-	-	
	1 屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策	光害対策ガイドラインを一部満たしている。	3.0	0.70	-	-	
	2 屋光の建物外壁による反射光(グレア)への対策		3.0	0.30	-	-	

評価する取組み	合計	合計2	No.1	No.2	No.3	No.4	No.5	No.6	No.7	No.8	No.9	No.10	No.11	No.12	No.13
<b>Q2 サービス性能</b>															
1.2.3 内装計画	4.0	2.0	○	○	○	○	○	○	-	○					
1.3.1 維持管理に配慮した設計	9.0		○	○	○	○	○	○	○				○		
1.3.2 維持管理用機能の確保	5.0			○	○	○		○	-				○	○	-
2.4.1 空調・換気設備	1.0		-	○	-	-	-								
2.4.2 給排水・衛生設備	3.0	3.0	○	○	-	-	-	-	○						
2.4.3 電気設備	2.0	1.0	○	-	-	○	-	-							
2.4.5 通信・情報設備	2.0		○	-	○	-	-	-							
<b>Q3 室外環境(敷地内)</b>															
1 生物資源の保全と創出	7.0		-	-	3.0	-	1.0	-	1.0	-	1.0	1.0	-		
2 まちなみ・景観への配慮	4.0		2.0	1.0	-	-	1.0	-							
3.1 地域性への配慮、快適性の向上	4.0		-	-	1.0	1.0	1.0	1.0	-	-					
3.2 敷地内温熱環境の向上	12.0		2.0	2.0	1.0	3.0	1.0	-	-	2.0	1.0				
<b>LR1 エネルギー</b>															
2 自然エネルギー利用	2.0		-	-	○	-	○	-	-	-	-	-	-	-	-
<b>LR2 資源・マテリアル</b>															
1.2.2 雑排水等再利用システム導入の有無				-											
2.1 材料使用量の削減	1.0		-	-	1.0										
2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用			-	-	-	-	-								
2.6 部材の再利用可能性向上への取組み	2.0		○	-	○	-									
3.1 有害物質を含まない材料の使用	1.0														
<b>LR3 敷地外環境</b>															
2.2 温熱環境悪化の改善	14.0		1.0	2.0	2.0	3.0	3.0	-	-	1.0	1.0	1.0			
2.3.3 交通負荷抑制	3.0		-	-	1.0	1.0	1.0	-							
2.3.4 廃棄物処理負荷抑制	3.0		1.0	1.0	1.0	-	-	-	-						
3.2.2 砂塵の抑制	2.0		2.0	-											
3.3.1 屋外照明及び屋内照明のうち月に漏れる光への対策	2.0		-	2.0											

主な指標		Q1 室内環境														
2.1.3 外皮性能		窓システムSG	0.5	窓の日射取得率(η)		0.4										
		U値(W/m2K)	窓システム 2.0	屋根	0.5	外壁	0.8	床	2.7							
		住戸部分	窓システムU値 2.0	外皮UA値	0.5	η AC	1.5	η AH	1.1							
3.1.1 昼光率		昼光率	1.5%													
4.2.2 自然換気性能		自然換気有効開口面積率	7.1%													
Q2 サービス性能		執務スペース	15.8㎡/人	病床	8.0㎡/床	シングル	15.0㎡/ツイン	22.0㎡								
1.1.1 広さ・収納性		コンセント容量	30.0 VA/㎡													
1.1.2 高度情報通信設備対応		天井高	2.7 m													
1.2.1 広さ感・景観		リフレッシュスペース	0.5%	レストスペース	2.0%											
1.2.2 リフレッシュスペース		想定耐用年数	30 年													
2.2.1 躯体材料の耐用年数		想定必要間隔	20 年													
2.2.2 外壁仕上げ材の補修必要間隔		想定必要間隔	20 年													
2.2.3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔		想定必要間隔	0 年													
2.2.6 主要設備機器の更新必要間隔		階高	4.25 m													
3.1.1 階高のゆとり		壁長さ比率	17.0%													
3.1.2 空間の形状・自由さ		床荷重	- N/㎡													
3.2 荷重のゆとり																
Q3 室外環境(敷地内)		外構緑化指数	60%		建物緑化指数	0%										
1 生物資源の保全と創出		空地率	63%		水平投影面積率	11%		地表面對策面積率	48%		舗装面積率	22%				
3.2 敷地内温熱環境の向上																
LR1 エネルギー		BPI/BPI <sub>m</sub>	0.66		断熱等性能等級	等級4を超える 相当										
1 建物外皮の熱負荷抑制		自然エネルギー直接利用量	0 MJ/年㎡		採光を満たす教室数	80.0%		採光を満たす住戸数	80.0%							
2 自然エネルギー利用				通風を満たす教室数	80.0%		通風を満たす住戸数	80.0%								
3 設備システムの高効率化		BPI/BPI <sub>m</sub>	非住宅 0.80		住宅 0.86	太陽光	76.0kW		太陽熱等	.0kW		蓄電池	.0kW			
LR2 資源・マテリアル		雨水利用率	0.0%													
1.2.1 雨水利用システム導入の有無		特定調達品目	-		エコマーク商品	-		自治体指定の特定品目等	-							
2.4 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用		使用比率	0.0%													
2.5 持続可能な森林から産出された木材		オゾン層破壊係数(ODP)			地球温暖化係数(GWP)											
3.2.1 消火剤		オゾン層破壊係数(ODP)	0		地球温暖化係数(GWP)	1										
3.2.2 発泡剤(断熱材等)		オゾン層破壊係数(ODP)	0		地球温暖化係数(GWP)	8										
3.2.3 冷媒																
LR3 敷地外環境		見付面積比	49% 隣棟間隔指標Rw 1.68													
2.2 温熱環境悪化の改善		地表面對策面積率	59.0%		屋根面對策面積率	12.0%		外壁面對策面積率	0.0%							
		見付面積Sb	824㎡		車道風向と直交する最大敷地幅Wa	88.313 m		基準高さHb	14.166667 m							
		緑地	2,087㎡		水面	㎡		保水性対策面	㎡		高反射対策面	㎡		再帰性反射対策面	309㎡	